

当局のデマ揭示を粉碎しよう

国鉄当局は、十一月十一日、中央交渉において「年内昇給を断念する」との「説明」を各組合に行い、「新しい昇給協定のすみやかな妥結」なる「呼びかけ」を各職場の業務用掲示に貼りだしました。

動労千葉は、同日の団体交渉において「十一月四日付の『昇給協定交渉の経過について』と称する掲示に続く、不当労働行為であり、一方的に事実を歪曲した動労千葉、国労破壊攻撃は認めない」と強く抗議し、掲出を止めるよう要求しました。

しかし、当局は、「各組合に同じ『説明』をした内容であり、止めることはできない」として掲出を強行しました。

これは明白に、国鉄当局と動労「本部」革マル、鉄労が一体となった動労千葉、国労に対する組織破壊攻撃であり、われわれは、この当局・反動組合一体となった攻撃を粉碎する闘いに決起しなければなりません。

「五八年四月期昇給」に関する団交経過と協定改悪攻撃の内容は『日刊動労千葉』No. 一四八七および一四九〇などで既報のとおりですが、以下、問題の本質を再度明らかにします。

昇給協定問題の本質

「58・4」昇給が遅れている真の原因は、
第一に、国鉄当局が三月段階に組合から申し入れがあつたにもかかわらず、六月十五日まで協定案を提示しなかったこと。

第二に、協定案が、三項八号、地方交渉、回復・是正などについて、この間の交渉経緯や慣行をまったく無視した一方的な内容であり、しかも、この提案を「一字一句変える気はない」として、以降の団体交渉においてもまったく前進した内容を提示しなかったこと。

第三に、これは、団体交渉をする前提条件を当局が一方的に破壊したことを意味しており、交渉が進展しないことは当然です。

第四に、この一方的改悪提案に対し、鉄労、動労「本部」革マルが片仕切りの承認を与えたため、団体交渉はもちろん、国労などが公労委へ調停申請しても、労働組合の側へ前進する前提条件がなくなってしまったこと。

これが、昇給が遅れていることの十一月四日に至る経過と原因のすべてです。

昇給協定に限らず、労働条件の基本にかかわる問題について、一方的な改悪提案を行い「一言一句も修正する考えはない」としたら、団体交渉になるでしょうか。しかも、一部の労働組合がこの当局の不当を国労、動労千葉などの組織破壊を目的に容認し、受け入れたとしたら、交渉が前進する条件がまったくなくなることは当然です。

このようにして、団体交渉が前進しないように

仕組んでおいて、十一月四日に至り「十一月六日までに団交が集約できなければ、年内昇給はできない」とうちだしてきたのが、この問題の本質なのです。

当局・鉄労・動労革マル一体となつた戦闘的国鉄労働運動圧殺攻撃

まとまるはずのない団体交渉を仕組んでおいて「支払いが遅れているのは動労千葉や国労が悪いからだ」という揭示を全国、全職場に二回にわたつてはりだすという悪辣な労働運動圧殺攻撃であるが故に、当局は、揭示において、団交が具体的に、三項八号、地方協議、是正・回復で対立している中味を明らかにすることができないまま、「妥結のための状況は十分に熟している」などというデマしかだせないのです。

この当局の弱点を補完するために、鉄労や動労「本部」革マルが「交渉は進展した。悪いのは国労と千葉動労だ」というデマを流しているのです。「国労が悪い」ということを強調して教宣を強化せよ」という指令を地方機関に発している動労「本部」革マルの「交渉が進展した内容」の説明などは、まさに噴飯ものでありません。

「三項八号」や回復・是正などは、労働条件の基本であり、労働者の一生の利害を決定するものです。「年内支給」などと取り引きしようとするところこそ問題なのです。当局の完全な手先Ⅱ動労「本部」革マルを打倒し、全国鉄労働者の団結と実質的組合要求に求づく昇給の早期実施を断固かちと、いこうではありませんか。